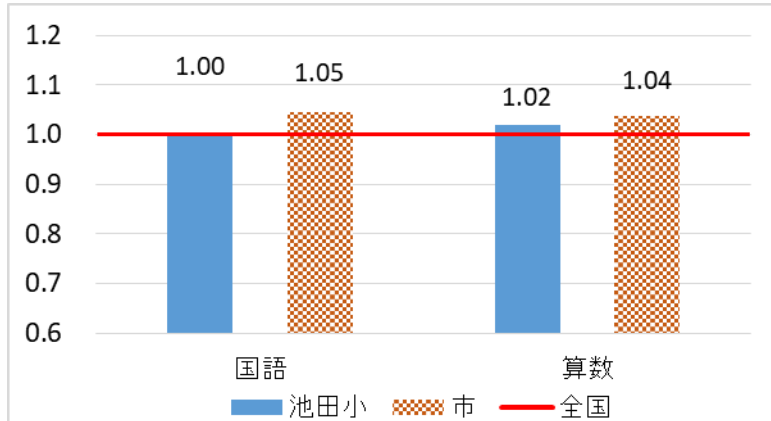


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

「話すこと・聞くこと」領域で全国平均を上回り、中でも「目的や意図に応じ資料を使って話す」問題では全国平均を大きく上回った。一方で「書くこと」領域に課題が見られた。引き続き自分の考えを根拠に基づいて相手にわかりやすく伝える学習活動に取り組んでいく。

【算数】

「データの活用」領域以外の全ての領域で全国平均を上回った。特に「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」問題では、全国平均を大きく上回った。引き続き主体性を大切に、つながる授業づくりを通して、数学的な見方、考え方を育成していく。

【質問紙調査】

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問では全国平均を上回った。引き続き朝の読書や本に親しむ取組を積極的に進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

- ・毎回の授業に対して、責任とプライドを持った「真心の授業」の実践
- ・子どもたちの学力向上に向けた具体的方策の確立（主体的な学習者の育成）
- ・各種学力テスト及び質問紙、アンケート等の分析を通じた、結果と課題の共有
- ・分析結果を利用した課題克服の手立ての共有
- ・家庭学習の定着と自主学習の推進
- ・校区3校の公開授業の推進

【学校】

課題分析を基に、つけたい力を明確にした授業づくりに学校全体で取り組んでいる。また、算数では3～6年生で学習状況に応じた分割授業を実施し、きめ細かな指導を通して学力向上に努めている。